

EMCの次世代 情報インフラストラクチャ戦略

情報のライフサイクル全体をカバーする「情報インフラストラクチャ」戦略のもと、「情報の保存」、「情報の保護」、「情報の最適化」、「情報の活用」の領域にフォーカスしたビジネスを展開するEMC。デジタル宇宙の膨張を背景に、業務中心の情報システムから情報中心のインフラストラクチャ構築を提唱するEMCの「次世代情報インフラストラクチャ」戦略を紹介する。

業務中心から情報中心のインフラストラクチャ構築へ

企業で最も重要な資産は情報である。しかし、この情報が必ずしも適切な方法で管理されているとは限らない。統一性のない情報管理のままでは、コストがかさみ、リスクにさらされる危険性が高くなるとともに、情報から新たな価値を生み出す際の障害になってしまう。

EMCでは、情報管理には一貫性の

企業全体として、膨張する情報に対して一貫したアプローチでのインフラストラクチャの構築

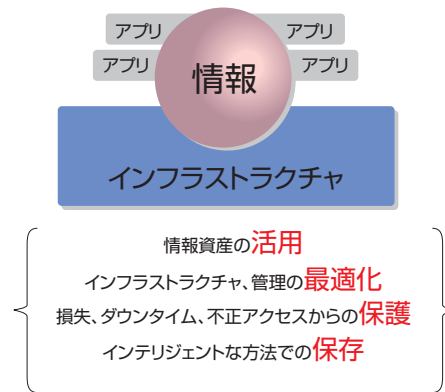


図1 EMC情報インフラストラクチャ戦略

ある戦略が必要であると考え、情報のライフサイクル全体をカバーする「次世代情報インフラストラクチャ戦略」を積極展開している。これは、

企業全体が情報に対して、一貫したアプローチでの情報インフラストラクチャの構築を進めていくことで、情報資産の有効活用と新たな価値の創出を実現する戦略である。EMCは、この情報インフラストラクチャ戦略に基づき、情報の「保存」と「保護」、それを実現するインフラストラクチャと管理の「最適化」、そ

して情報資産の「活用」の4つを柱にした製品、サービスの提供に取り組んでいる。

適切なコストとSLAを満たす効率的な情報の「保存」

急速に増加している情報を効率よく適切な品質で確実に保存していくことは、極めて重要である。EMCでは、「使いやすさ」、「低消費電力（グリーンIT）」、「情報中心型セキュリティ」、「投資の保護」の4つをコンセプトに、SLAを遵守しながら効率的に情報を保存するストレージラインナップの拡充を進めている（図2参照）。

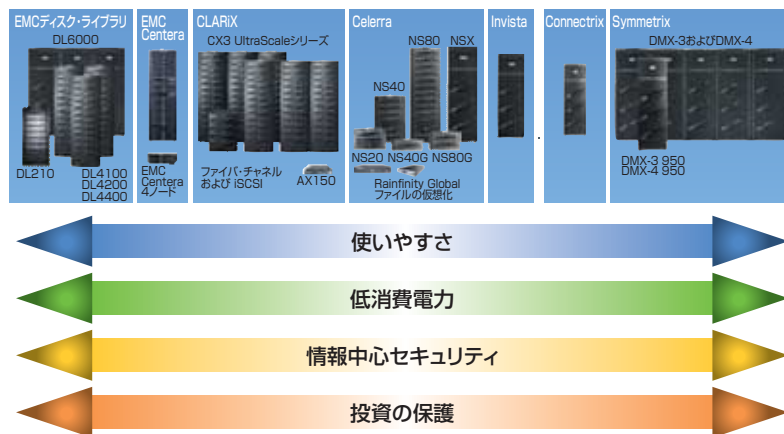


図2 EMCのストレージラインナップ

EMCではネットワーク・ストレージに関しては特に可用性を重視しており、アレイの「ファイブナイン(99.999%)」の可用性を標榜している。また、適切なデータを適切なタイプのディスク・ドライブに配置して、階層化できるように、エントリレベルからハイエンドまでいろいろなタイプのストレージ・アレイやディスク・ドライブを提供している。さらには、電力/データセンターに関する効率性や、ストレージ・アレイの使いやすさ、仮想的にストレージのプロビジョニングを行う仮想プロビジョニングを重視している。

大切な情報を 損失から「保護」する

情報の確実な保護については、「使用頻度の低いデータのアーカイブ」、「環境の合理化」、「戦略的なディスクの活用」、「一元化と最適化」、「コンプライアンスの実現」、「プロアクティブな監視」の6つの構成要素を軸に、コスト削減、SLAへの準拠、コンプライアンス準拠のバックアップ/リカバリ/アーカイブを実現する技術

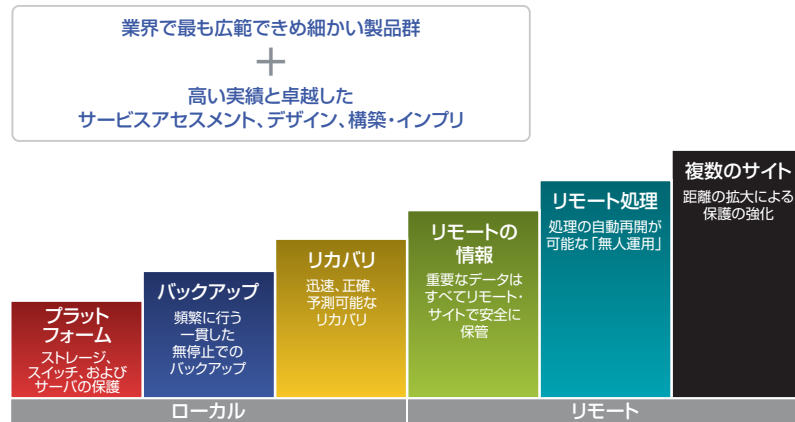


図3 EMCのビジネス継続性・災害対策

のエコシステムを提供している。さらに、高い実績と卓越したプロフェッショナル・サービス（サービスアセスメント、デザイン、構築・インプリメンテーション）もEMCの大きな特長である（図3参照）。

情報の保護に取り組むうえで、様々な脅威への対策も不可欠である。多くの企業が導入しているファイアウォールやVPN、IDS/IPS、アンチウイルスソフトウェアなどのセキュリティツールは、様々な脅威に対する防御線を構築して、情報をはじめ、ネットワークやラップトップなどのリソースのプロキシを保護

している。このような防御線型のアプローチは、情報を保護するうえで絶対に不可欠なものである。しかし、情報がライフサイクルに従って移動した場合、つまり、防御線の外へデータ（情報）が移動した場合は、それを保護することが困難になってしまう。この対策として、移動する情報自体を保護することを目的としたアプローチが必要である。

EMCが注力している情報の保護とは、情報自体を保護する情報中心型のセキュリティ対策である（図4参照）。

情報セキュリティに関しては、暗号化、鍵の一元管理、ID管理、認証、イベント管理に注力している。

また、情報のアーカイブについては、コンプライアンス、データが変更されていないことを保証する不変性技術、e-discovery（電子的証拠開示）機能や、前述した重複除外機能、SaaSによるデータのアーカイブを重視している。

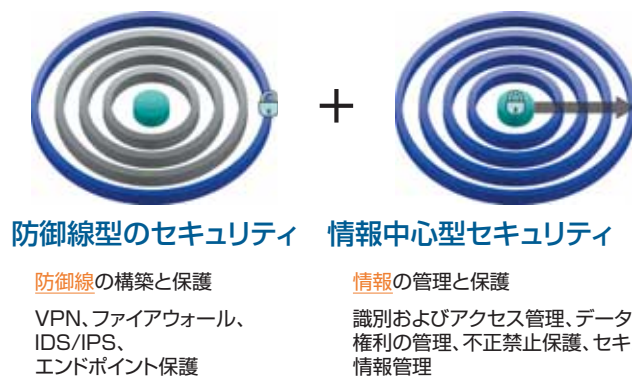


図4 防御線型+情報中心型セキュリティ



図5 自動化されたインテリジェントな運用管理ソリューション

- 業界でも最も幅広い仮想化製品を提供
 - サーバ: VMware
 - NAS: Rainfinity
 - SAN: Invista
- 仮想化されたITインフラを統合管理、バックアップする最新技術
 - EMC ControlCenter
 - EMC Smarts (将来計画)
 - EMC Avamar

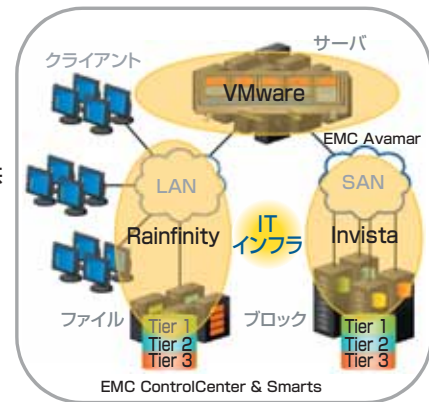


図6 仮想化によりインフラストラクチャを最適化

運用管理の効率化と仮想化による「最適化」

複雑・肥大化するインフラストラクチャの管理に関しては、自動化されたインテリジェントな運用管理ソリューションの提供と仮想化による最適化に注力している。運用管理ソリューション「EMC Smarts」や「EMC ControlCenter」を活用することで、ストレージ・リソースからアプリケーション・リソースまでを

含めたモデル・ベースの管理、複数のストレージ／ネットワーク間における根本原因の自動分析、アプリケーション依存関係のマッピングの自動化を実現。管理の簡素化やITIL COBITに対応した管理、障害対応の迅速化、システムの「見える化」といった運用管理における様々な課題を解決した（図5参照）。

また、サーバの仮想化製品である「VMware」（VMware社より提供）やNAS環境仮想化の「Rainfinity」、

SAN環境仮想化の「Invista」といった業界でも最も幅広い仮想化製品を提供している（図6参照）。

情報活用のためのコンテンツ「管理」／アーカイブ

情報の活用においては、「エンタープライズ・コンテンツ管理」と「統合コンテンツアーカイブ」という、EMCの独自性を実現する製品とサービスを提供している。一元化されたアーキテクチャに基づきリポジトリ・インフラとコアに基づいたサービスからなる「統合コンテンツ管理プラットフォーム」、保存ポリシーや記録管理、規制関連、eDiscovery（電子的証拠開示）といったコンプライアンス・サービスをベースとした「共通のコンプライアンス・インフラ」を活用して、文書画像処理、ナレッジ・マネジメント、Webおよびリッチメディア管理、統合アーカイブなどのソリューションを提供している（図7参照）。

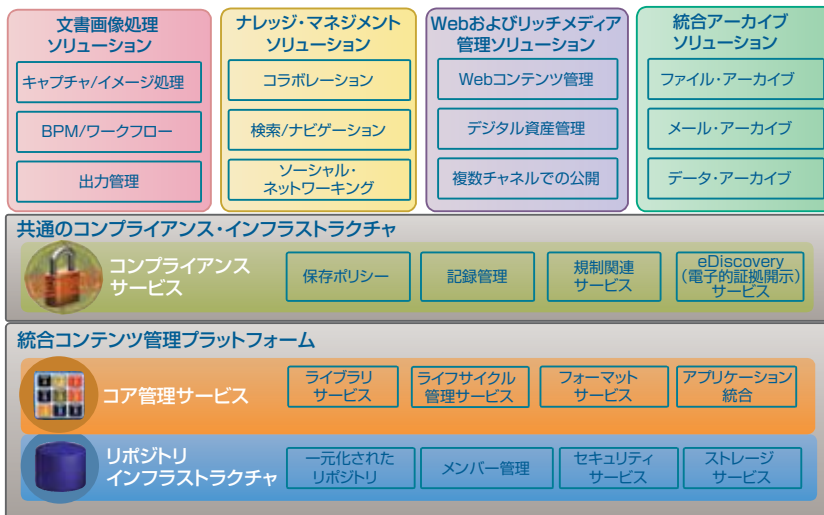


図7 エンタープライズ・コンテンツ管理